

IV. 副 專 攻

【1】副専攻の趣旨

各学部・学科の科目は、大きく分けると、教養科目と専攻科目とキャリア育成科目の三つよりなります。教養科目は、学部の枠を超えて、基本的なものの見方・多面的なものの見方を学んだり、幅広く、現代社会の様々な問題を学んだりするための科目です。キャリア育成科目は、学部とは関係なく、より直接的に就業力（社会で継続的に活躍できる力）を養うための科目です。これに対して、専攻科目は、各学部が、それぞれの専門領域において、基本的に学んでほしいと考える内容を提供する科目、それぞれの分野から社会を理解するための科目です。

各学部が提供する教育内容をしっかりと学び身につけることが、大学での学習という点では、何より重要なこととなります。しかし、少し余裕があって、他の学部の専門領域も学びたい、異なった観点を身につけることによってより深く社会を理解したいという人もいることでしょう。そういう人に対して、他学部の専門領域の基礎をきちんと学ぶことができるようにしたのが副専攻です

副専攻は、学部の枠をこえた学習を可能にするものです。自らの興味・関心に基づき、さらには卒業後の進路なども考えて、積極的に副専攻を履修してくれることを期待します。

なお、副専攻の単位は、各学部の自由選択単位とすることができます。さらに、所定の単位を修得した学生に対しては、大学が履修したテーマを副専攻として修得したものとして認定を与えます。

【2】副専攻テーマと授業科目

副専攻テーマと授業科目は、下表のとおりであり、それぞれのテーマを1つ選択し、各々配置されている授業科目を履修することができます。

＜2013年度以降入学者適用副専攻＞

テーマ名 (所管学部)	授業科目 (配当年次/単位数)
法学の基礎 (法学部)	行政法概論 (1年/2単位)
	商法概論 (1年/2単位)
	憲法(基本的人権)Ⅰ (2年/2単位)
	憲法(基本的人権)Ⅱ (2年/2単位)
	民法(総則)Ⅰ (2年/2単位)
	民法(総則)Ⅱ (2年/2単位)
	刑法総論Ⅰ (2年/2単位)
	刑法総論Ⅱ (2年/2単位)
	国際法Ⅰ (2・3年/2単位)
	国際法Ⅱ (2・3年/2単位)
	労働法Ⅰ (3・4年/2単位)
	労働法Ⅱ (3・4年/2単位)
	知的財産法Ⅰ (2・3年/2単位)
	知的財産法Ⅱ (2・3年/2単位)
	法科大学院適性試験演習Ⅰ (2・3年/2単位)
	法科大学院適性試験演習Ⅱ (2・3年/2単位)
法科大学院適性試験演習Ⅲ (3・4年/2単位)	
行政の基礎 (法学部)	行政法概論 (1年/2単位)
	憲法(基本的人権)Ⅰ (2年/2単位)
	憲法(基本的人権)Ⅱ (2年/2単位)
	行政法総論Ⅰ (2・3年/2単位)
	行政法総論Ⅱ (2・3年/2単位)
	行政学Ⅰ (2・3年/2単位)
	行政学Ⅱ (2・3年/2単位)
	行政手続と行政争訟Ⅰ (3・4年/2単位)
	行政手続と行政争訟Ⅱ (3・4年/2単位)
	公務員への道Ⅰ (2年/2単位)
	公務員への道Ⅱ (2年/2単位)
	公務員への道Ⅲ (3年/2単位)
	公務員への道Ⅳ (3年/2単位)
	公務員への道Ⅴ (3年/2単位)
地域行政と法 (2年/2単位)	

<p>経済学と経営学の基礎 (経済経営学部)</p>	<p>統計学基礎 統計学応用 簿記原理Ⅰ 簿記原理Ⅱ 情報処理概論Ⅰ 情報処理概論Ⅱ 会計学総論Ⅰ 会計学総論Ⅱ マクロ経済学Ⅰ マクロ経済学Ⅱ ミクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅱ 財政学Ⅰ 財政学Ⅱ 日本経済論Ⅰ 日本経済論Ⅱ</p>	<p>(1 年/2 単位) (1 年/2 単位) (1 年/2 単位) (1 年/2 単位) (1 年/2 単位) (1 年/2 単位) (1 年/2 単位) (1 年/2 単位) (2 年/2 単位) (2 年/2 単位) (2 年/2 単位) (2 年/2 単位) (2 年/2 単位) (2 年/2 単位) (2 年/2 単位) (2 年/2 単位)</p>
<p>日本の文化を知る (現代文化学部)</p>	<p>日本文化論入門 比較文化概説Ⅰ 比較文化概説Ⅱ 日本文化論Ⅱ 日本語文化論 日本古典文学Ⅰ 日本古典文学Ⅱ 日本近現代文学Ⅰ 日本近現代文学Ⅱ 中国文学 アジア言語文化論 アジア文化論 観光と文化Ⅳ(日本)</p>	<p>(1 年/2 単位) (1 年/2 単位) (1 年/2 単位) (2 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (3・4 年/2 単位) (2・3 年/2 単位)</p>
<p>言語文化・コミュニケーション (現代文化学部)</p>	<p>比較文化概説Ⅰ 比較文化概説Ⅱ 現代文化と観光 言語コミュニケーション論 異文化間コミュニケーション論Ⅰ 比較思想 イギリス文学Ⅰ イギリス文学Ⅱ アメリカ文学Ⅰ アメリカ文学Ⅱ ドイツ文学 フランス文学 英語文化論Ⅰ 英語文化論Ⅱ 日本語文化論</p>	<p>(1 年/2 単位) (1 年/2 単位) (1 年/2 単位) (2 年/2 単位) (2 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位)</p>

観光と文化交流 (現代文化学部)	現代文化と観光 飯能学 S. I. T. エコツーリズム論 観光と情報 観光と文化Ⅰ (ヨーロッパ) 観光と文化Ⅱ (アメリカ) 観光と文化Ⅲ (アジア) 観光と文化Ⅳ (日本) アメリカ文化論 ヨーロッパ文化論Ⅱ	(1 年/2 単位) (1 年/2 単位) (1 年/2 単位) (2 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位)
スポーツ文化探訪 (現代文化学部)	スポーツ史 スポーツ文化概説 現代スポーツ文化論 救急処置法 スポーツ哲学 スポーツ社会学 スポーツ心理学 身体文化論 スポーツ人類学 アートスポーツ論 生涯スポーツ論 スポーツ・マネジメント 現代社会と運動処方 スポーツ栄養学 海外スポーツ文化研修	(1 年/2 単位) (1 年/2 単位) (1 年/2 単位) (2 年/2 単位) (2 年/2 単位) (2 年/2 単位) (2 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位)
心理学の基礎 (心理学部)	心理学概説Ⅰ 心理学概説Ⅱ 発達心理学Ⅰ (概論) 発達心理学Ⅱ (ライフサイクルと発達課題) 生理心理学 学習心理学 心理学史 認知心理学Ⅰ (感覚と知覚) 認知心理学Ⅱ (記憶) 発達心理学Ⅲ (認知・社会性の発達) パーソナリティ心理学Ⅰ パーソナリティ心理学Ⅱ 社会心理学Ⅰ (対人認知) 社会心理学Ⅱ (社会と人間) 臨床心理学Ⅰ 臨床心理学Ⅱ	(1 年/2 単位) (1 年/2 単位) (1・2 年/2 単位) (1・2 年/2 単位) (1・2 年/2 単位) (1・2 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位) (2・3 年/2 単位)

【3】履修方法（履修上の注意）

1. 履修方法

副専攻科目は、所属学部で異なります。それぞれの学部が開講されている科目を履修することになります。開講されている副専攻科目はすべて履修可能ですが、各テーマは所管学部の学部あるいはコースの教育内容に沿って設定されており、それぞれ独立しています。特定のテーマを学習しようとする場合、選択したテーマに配置されている科目以外の科目を履修しても、当該テーマの単位としては認められません。

- (1) 各テーマに配置された科目のうち、16単位以上（最低16単位）を修得した場合は、各テーマについての副専攻科目を履修したものと認定されます。
- (2) 副専攻科目で修得した4単位までは自由選択単位として卒業要件単位に算入することができます。
- (3) 副専攻の認定に必要な16単位のうち、卒業要件単位として算入することができる4単位を除いた残りの必要単位は、各学部が定める卒業要件単位数を超えて修得することが必要になります。
- (4) 副専攻科目の履修登録は、他の授業科目の登録と同じく、各年度初めの登録期間中に履修予定の科目を登録することにより行います。

2. 履修上の注意

- (1) 副専攻テーマと授業科目は、本履修ガイドの62～64頁のとおりです。（学部によって内容は異なりますので、注意してください。）
- (2) 副専攻用のシラバスはありませんので、履修しようとする科目については、テーマの所管学部のシラバスを確認してください。
- (3) 教職課程、資格課程（司書課程・学芸員課程）を履修している学生が、教職課程、資格課程の授業科目として、副専攻科目を履修することはできません。履修登録時に、教職課程、資格課程の授業科目として履修するのか、副専攻科目として履修するのかについて十分に注意してください。
- (4) 同一科目が複数開講されている場合、担当者が異なっても、同一名の科目を重複して履修することはできません（例：A先生の統計学基礎とB先生の統計学基礎はどちらか一方のみ履修できます）。
- (5) すでに単位を修得した科目を再度履修することはできません。
- (6) 年次別履修上限単位に含まれます。

3. 再履修について

副専攻科目の単位を修得できなかった場合、修得できなかった科目を再履修するか、又は他の科目をあらためて選択し、履修することができます。

4. 副専攻認定証書

- (1) 副専攻認定証書は、各テーマの科目を16単位以上修得し、卒業年次において副専攻認定証書の交付申請がなされた場合に卒業証書とともに授与します。
- (2) 複数のテーマに配置されている科目の修得単位は、それぞれのテーマの認定証交付申請要件単位に算入することができます（例：日本語文化論は「日本の文化を知る」と「言語文化・コミュニケーション」の認定証交付申請要件単位に算入することができます）。

